

令和元年度第2回保護司国際研修に参加して

三重県津保護司会 三ヶ嶋 一美

1月28日・29日、国連アジア極東犯罪防止研修所の第174回国際高官セミナー期間中に実施される保護司国際研修に参加しました。

帰宅してからの私のテンションの高さは、異常なくらいだったでしょう。研修の翌日は、サポートセンターの駐在日でしたが、出勤前に観察所に寄り、企画調整課長に感謝の報告をしました。修了証書を見せると、課長は、以前参加した高官セミナーの修了証書を見せてくださって「おんなじやん」と驚きの声を上げられ、私は悦に入りました。

その後、サポートセンターに行くと、会長や事務局の皆さんに学んできたことを余すところなく報告しました。その後も「どうだった?」と尋ねて下さる方には、興奮気味に報告しました。この国際研修は、近所のおせっかいおばさんとして保護司活動を送っていた私にとって、それはそれは刺激に満ちた2日間でした。

さて、研修に参加する頃、新型コロナウイルス感染者が日本でも出始めました。これは、欠席理由としても有益かもと頭をよぎりました。と言うのも、研修参加を安請け合いしてから届いた資料の内容に私で務まるのだろうかとおののいていたからです。語学が出来ないと言う断りの理由は功を奏さず、反対にどれほど有意義で楽しい研修であるかを聞かされ説得されました。年が明けてからは、楽しみの方が上回ってきましたが、やはり間際になると不安が増し、新幹線の中では、不安と期待がせめぎ合っていました。

アジ研に着いてからは、簡単なオリエンテーションの後、即、事例報告でしたから、肝を据えてここは楽しもうと自分に言い聞かせて臨みました。高官セミナー参加者の方々は、つたない発表に真摯に耳を傾けて下さり、その質疑には、自国の代表として望んでおられる真剣さが感じられました。また、その質問には、日頃気にも留めていなかったことに気付く機会にもなりました。今回は、関係機関との連携がテーマになっていたため、他の保護司の方々の発表も興味深く、同じ保護司としてもそれぞれに取り組み方があって、同じように悩みながらやっておられる様子が感じ取れました。

2日目は、海外客員専門家のヤナ・スピーロ氏による「クロアチア保護観察サービスにおける犯罪者の再社会化とリハビリテーション②」の講義でした。長年の紛争を乗り越え、新たな国づくり、EU加盟に向けての取り組みから始まった保護観察の様子が熱く語られました。

軽犯罪で初犯の成人への処遇で、能力や健康状態に応じて、社会奉仕活動をさせるというものでした。刑期の1日を2時間として計算し、資格なども生かして奉仕活動をする。それも、強制ではなく、刑務所か社会奉仕か本人が決めることができるというのは驚きでした。国民に有益な活動（公園清掃や施設のペンキ塗り・医者が老人施設などで医療活動をするなど）をさせることで、経済効果を生み、本人にとっても仕事を中断しなくても良いとか、終了後もボランティア活動を続ける人も出ているという報告でした。まだまだ制度は発展途上ではありますが、成功率90%の成果を上げているとのことでした。それでもなお試行錯誤をし、改善していかれる様子も語られました。

その他、食事や懇親会など研修以外の交流も私にとって研修の一部となりました。それぞれの国の様子、生活習慣や犯罪や更生保護の様子など多くの情報を得ました。語学が出来ない私は、皆さんに通訳していただいて話し合いました。また携帯の翻訳アプリは、結構助けになりました。なかなか思うような翻訳ではなかったようですが、その面白い翻訳が場を和ませてくれたりもしました。特に、ミャンマーやラオスの方とは、日本語を英語にし、英語をミャンマー語に変換しての会話で、些細な生活習慣の違いを知ることができ同じアジア人として親しみを感じました。2日間ではありましたが、互いのことを理解しあったような気分になりました。

実質1日間ではありましたが密度の濃いこの研修に参加できたこと、本当に良かったと思っています。

最後に、教官をはじめ、スタッフの皆様や、日本の研修生の方々には、言い尽くせないご配慮をいただき、快適な2日間を過ごさせていただきました。心から感謝いたします。今後のアジ研のご活躍、各地へ戻って行かれました保護司の皆さんのご活躍、なにより高官セミナーに参加された各国の皆さんの今後のご活躍を祈念しています。